

タイトル：みんな違う世界で生きている 氏名：小野桜(S高等学校)

初めに私が知ったのは、黒い屋根の家を作ったこと。幼稚園に入り、文字が読めるようになってからは、街へ行って日常を楽しめるシュミュレーションゲームで楽しんでた。その次に、姉は意地悪だってこと。お気に入りのぬいぐるみを青いペンで塗りたくったし、私のだからって言ってピンク色のデジカメを貸してくれなかったから。

小学生になった。勉強は好きじゃないことを知った。割り算の筆算がよくわからなかったから。

狡猾さを知った。夜に携帯ゲームを布団に持ち込むと親に気づかれちゃうけど、休日の朝に早起きをして、起きてくる前にやり込んだらあんまりバレなかったから。

声優という職業を知った。ある時、アニメを見始めたから。声によって変幻自在に自分を変えて、登場人物を作り上げる。憧れの人と、憧れの職業を見つけた。

学級崩壊を見た。小学6年生の時に起こり、担任は2回変わった。人々は不満を持つことを知った。

中学生になった。演技力を知った。演劇部に入り、役者として活動できたから。達成感を知った。演劇を作り上げて、文化祭や公演で披露できたのがとても嬉しかったから。

恐怖を知った。大人が怖くて、何を言ったら怒鳴ってくるのかわからなかったから。波風立たせず、集団行動を取る方法を知った。

世の中の変化を知った。みんなが外出できなくなって、マスクをつけないといけない時代になったから。それからはつまらない日々が続いた。憧れはどうでもよくなった。

失敗を知った。受験がうまくいかなかったから。

そんなに期待していないまま高校生になった。第二志望の高校だったから。不仲を知った。人に話しかけることができない私は、誰とも仲良くなれなかったから。放送部に入った。大会で名前を残してみたかったから。

諦観を知った。好きなことでも自分から行動していけるほどの力量がなかったから。

迷いを覚えた。本当に私はこのままでいいのかわからなかったから。

不登校になった。全て忘れてしまったから。知ったことが、否定的な私となったから。

高校を変えた。転校して、私が本当にやりたいことを見つけたかったから。

成功を思い出した。演劇を成功させた時のような、あの達成感を。

人と共に答えのないものを完成させた時に感じていた。

笑顔を思い出した。楽しい時は笑って、人を嬉しくさせるような魔法を。

人と冗談を言い合って、口角が上がった時に感じていた。

信頼を思い出した。人に任されて、責任を持ってやり遂げるあの生きがいを。

人と何らかの取り組みをする時、役割分担の時に感じていた。

寄り添い合える場所を見つけた。そこには、たくさんの仲間がいたから。

感じてきたこと、見てきたこと、全てが私のなかに収納されている。

知ってきたこと、覚えてきたことの、全てが私の心の一部となる。

それこそが、私だけが住む、私だけの世界なんだ。  
世界とは、見えるものだけが世界じゃない。  
たくさんある世界の中に、ひとりひとりが自分の世界に住んでいて、  
そこから、みんなが見れる共通の世界を見つめてる。  
そんなことを、私は、私の世界に居座りながら、考えている。